

建設新報 10月13-16日(3) 合併

六中生2名有意義な時間

酒田河川で「体験学習」受け入れ

酒田河川国道事務所 儀・責任感を養成すること(黒沼正敏所長)では、とを目的に体験学習を実施している。

酒田市の立第六中学校から依頼に応じて、10月6日、7日の2日間にわたり「職場体験学習」として2年生2名の受け入れを行った。

同校では、就業体験を通して地域産業や職業への理解を深め、将来の職業選択能力を高めるとともに、社会に通用する礼



儀・責任感を養成すること(黒沼正敏所長)では、とを目的に体験学習を実施している。今回は、(一社)山形県建設業協会から「地元建設業の役割・重要性」について説明してもらい、さらに建設業に対して興味を持ってもらえようにと、事務所が企画した。6日は午前9時から事務所の業務概要説明を受けたあと、道路監視室を見学して橋や盛土の施工方法を学び、余目酒田道路の現場体験学習を行い、午後は、河川出張所管内概要の説明を受け、遠隔除草機械操作の体験や河川巡視、堤防強化工事の現場見学を行った。

また7日には、黒沼所長から道路出張所管内の概要説明を受けたあと、

防災ステーションの格納庫を見学。このあと、三川町から赤川橋、県境の遊佐町付近までの道路パトロールを体験して、途中に女鹿視距改良工事現場、午後は、さみだれ大堰施設を見学。2日間で、合計14時間余りの有意義な体験学習に真剣に取り組み終了した。

生徒の越田一磨君と、渡部竜矢君は「将来は同じ業種の公務員を目指したい」、「普段道路の目に見えていない部分について、詳しく知ることが出来て良かった」などと、それぞれの体験を目を輝かせながら振り返った。